

福島県におけるまちづくりフィールドワーク

団体名 ● Tourism Practice / 代表者名 ● 齋藤 千恵 (人文部学国際文化学科・教授)

はじめに(背景・目的・目標)

人文学部の観光系の授業では、例年福島県伊達郡桑折町を訪れ、まちづくりについてのフィールドワークを行っている。桑折町を訪れるのは、ひとつには、東日本大震災前からよく考えられたまちづくりが行われてきたことにある。町の人々が積極的にまちづくりに参加してきたし、その活動の一環として外部から来た人々をもてなしてきた。こうした桑折は、学生たちにとって格好の学びの場である。一方で、まちづくり計画は、東日本大震災やその後に起きた地震により変更を余儀なくされてしまった。こうした町に対して本学教員と学生が貢献できることはないか。それが、我々が桑折を訪れ、町を知り、まちづくりに対する提案を行うことであった。この何年か、桑折町は若者の視点を生かしたまちづくりをしようとしており、学生たちの提案のいくつかは桑折のまちづくりに取り入れられた。

活動内容

Tourism Practice の授業では、大学でまちづくりや福島県、桑折町について学んだあと、桑折町を訪れる。現地を訪れ、人々と交流し、まちづくりを学び、大学に帰ってくる。大学に帰った後、学生たちは ZOOM を通して町の人々にまちづくりの提案を行った。

桑折町は、奥州街道と羽州街道の分岐点があり、江戸時代には多くの人が行きかう宿場町であった。明治に入ると鉄道の駅もでき、再び交通の要所となった。養蚕業も盛んで、町にはその頃建てられた蔵が多くあった。

旧奥州街道沿いにも蔵が立ち並び、町は、これらの蔵を生かしたまちづくりをしていこうとした。ところが、東日本大震災とその後の同規模の地震により、多くの蔵が破壊され撤去されてしまった。2023年度の授業で桑折を訪問した際には、もてなしに使用された蔵を含めいくつもの蔵がなくなってしまっていた。町のメインストリートにあたる旧奥州街道沿いに空き地が目立つようになったのであった。こう

した状況で、メインストリート沿いの風景をどうするのか、学生たちは考えていった。

成果、結果の考察

メインストリートの修景は、教員側から出したテーマであった。これに加えて、町の人々からも提案に関するテーマが出された。駅前に建設が予定されている多目的ビルの利用の仕方や桑折町の情報発信の在り方についてである。町の人々が求めたのは、若い視点からのビル利用方法であり、情報発信であった。若者がいる桑折をイメージしてのことである。授業での発表という形で提案したので、詳しいことはここには書かないが、現代を生きる若者、学生としての立場からの意味のある提案ができたのではないかと考えている。

今後の課題、展望

いくつかの大学の学生が桑折町で活動している。本学は、そのうちの一つで、かなり遠方から桑折町を訪れている。そのため、日常的に現地に赴くことができない。こうした現状をどのように補い、町に貢献していくのが今後の課題である。



写真：桑折の桃農園を訪問する学生たち